

時間割コード	Q4502901	開講年度	2026				
授業題目	進路指導・キャリア教育の理論と実践【第4欄】					担当教員	田村 徳至
英文授業名	A Theory and the Practice of career education						
単位数	1	講義期間	後期(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	L, S
講義室	東洋計器講義室(20番講義室)		授業形態	講義	遠隔授業科目		備考
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	・学校から社会への移行をめぐる様々な課題や子どもたちの生活や意識の変容から、キャリア教育が求められている歴史的・社会的背景について整理するとともに、キャリア教育の基礎理論やキャリア教育政策の最新動向について学習する。 ・ワークショップやカウンセリング等の演習において、キャリア教育に必要な諸能力について理解を深め、キャリア教育の実践に必要な基本的な考え方や、キャリアカウンセリング等の技法について学習する。 ・外部講師をお招きし、現在の大学生全般の就職状況などの情報提供をしていただく予定である（変更の可能性あり）。 ・キャリア教育は経済教育との関係もあることから、金融機関の方もお招きし、金融経済の概説をしていただく予定である（変更の可能性あり）。 ・『公立中学校での教師経験のある者が、その経験を活かして進路指導・キャリア教育について指導を行う。』						
(5)授業のキーワード	キャリア選択,キャリアカウンセリング,コミュニケーション,生活設計						
(6)授業計画	本講義は、初年次生が対象であるが、高年次生の履修も認める。教職科目1単位必修である。集中である。日程は令和9年2月1日（月）～2日（火）の予定である。 第1回：キャリア教育の理念と性格(キャリア教育とは何か、キャリア教育と進路指導、キャリア教育と職業教育) 第2回：キャリア教育の導入過程(職業指導から進路指導へ、進路指導からキャリア教育へ) 第3回：キャリアの基礎理論(職業指導の成立、特性・因子論的アプローチ、職業的発達理論からキャリア発達理論へ、意思決定理論) 第4回：キャリア理論の新動向(スーパー以降のキャリア発達理論、社会的認知理論、ポストモダン・アプローチ) 第5回：キャリア教育の位置づけ(学校教育におけるキャリア教育の位置づけ、小学校・中学校・高等学校・専門学校・大学におけるキャリア教育) 第6回：若者問題とキャリア教育(フリーターの実態とその社会的背景、フリーター・ニートの支援策、フリーター・ニートの支援機関) 第7回：キャリア教育政策(キャリア教育をめぐる背景) 第8回：キャリア教育における評価(評価の目的・意義、評価の種類と方法)（授業の最後にアンケートを実施する 15分間） ＊最後にレポートを課す						
(7)成績評価の方法	①毎時間課すミニレポートの内容(4点)×8回 32点 ②授業態度(1点)×8回 8点 ③中間(事前)レポート課題 「キャリア教育に係わる自分の考えを具体的に記述する」30点 具体的な事前課題(テーマ)は7月中旬にeALPSに掲載する。 ④期末レポート課題 「講義・演習の内容を踏まえたキャリア教育に係わる課題に対して、具体的な実施方法を記述する」30点 合計100点満点として評価する。 ＊事前課題を提出しなくとも履修を認めるが、成績評価は極めて不利となる。 【注意事項】 ・初回の講義時に詳細を説明する。						
(8)成績評価の基準	事前レポートと期末レポートの評価基準は、以下の通り。 ①キャリア教育に係わる様々な事象とその対応と理論的な内容を正しく理解した上で、現代の教育課題に対する自身の考えを明確に述べることできている。 ②テーマに正対した適切な先行研究(論文)の内容を1本以上踏まえた上で、その内容を自身の論に援用できている。 ③第三者が初見でも筆者の論の展開を追えるような、論理的かつ的確な説得的記述が行われている。 ④論の内容がこれまでのキャリア教育に対して新しい見方を提示するものであれば「卓越している」。 ①から④の四項目を満たしていれば「かなり上にある」。 ①②および①③、①④の二項目ができていれば「やや上にある」。 ①ができていれば「水準にある」。 毎回課すリアクションペーパーでは、以下の三段階で評価を行う。①授業の内容を踏まえた上で、自分の考えを分かりやすく記述されていれば「かなり上にある」、②授業の内容が踏まえられていれば「やや上にある」、③自分なりの考えを述べることでできていれば「水準にある」。						

(9)事前事後学習の内容	【事前】 1 2 月中にeAlpsに事前課題を掲載するので締め切り日までに提出する。 提出期限：令和9年1月31日（日）午後23時59分58秒 提出場所：eAlpsの事前レポートBOX 【事後】 文部科学省のホームページにあるキャリア教育に関する部分を見ておくことが望ましい。 ※この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となる。
(10)履修上の注意	①一部、e-Learning等の学習がある。 ②授業は、教員による講義を基本とするが、履修者は、積極的に発言するなど、主体的に授業に参加することを望む。 ③2月1日（月）1限のガイダンスでは、授業計画・概要、授業方法と評価に関する説明を行うので必ず出席すること。 ④教科書等は特に使用・指定せず（適宜授業中に紹介する）、授業時にレジュメ等を配布する。 ⑤なお、必要に応じて、ビデオ・DVDなどの視聴覚教材を活用する。
(11)質問,相談への対応	簡単な質問については講義中に随時受け付け、講義中・講義後・次回授業時に説明を行う。その他、初回授業時に伝えるメールアドレスにて随時質問を受け付ける。
(12)授業への出席	○受講者がすべての授業に出席することを想定している。 ○毎回、リアクションペーパーの提出（400字程度記述）をもって出席とする。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	○出席停止扱い等の場合のみ、eAlpsに掲載した授業レジュメを見て、学修したことをまとめたものを提出することを認める。
【教科書】	指定しない。授業時にレジュメを配布する。同様のものをeAlpsに掲載する。
【参考書】	・キャリア教育の手引き（文部科学省） 購入する必要はない。 小学校版・中学校版・高等学校版→H Pからダウンロード可能